

シビル メール ニュース



これまでに配信されましたシビルメールニュースは、「日本大学理工学部土木工学科」のホームページ (<http://www.civil.cst.nihon-u.ac.jp>)より『OB向け情報』→『シビルメールニュース』でご覧いただけます。なお、シビルメールニュースをE-mailにて配信ご希望の方もしくは郵送を希望される方は、卒業年次・氏名・勤務先・配信メールアドレス（郵送先住所）を明記の上、mailnews@civil.cst.nihon-u.ac.jp宛お申し込み下さい。

発行責任者 土木工学科教授・教室主任 松島眸

平成 21 年度 日本大学理工学部一般入試情報

1月17日（土）、18日（日）の2日間、平成21年度大学入試センター試験が船橋校舎にて行われました。日本大学理工学部では、大学入試センター試験を利用した一般入学試験は3種類あります。センター試験のみを利用したC方式第1・2期、センター試験と本校で行われる個別学力検査（数学）の結果を基に判定を行うCA方式です。

また、日本大学理工学部独自問題で行われる一般試験A方式の出願締め切りは2月3日（火）、試験日は2月11日（水）に駿河台・船橋校舎をはじめ仙台、水戸、高崎、大宮、千葉、横浜、金沢、名古屋、大阪、広島、福岡で行われます。

それぞれの一般入学試験の日程は以下の通りです。

試験	出願期間	試験日	合格発表
A方式	1月8日(木)～2月3日(火)	2月11日(水)	2月17日(火)
C方式第1期	1月8日(木)～17日(土)	1月17日(土)・18日(日)(大学入試センター試験)	2月12日(木)
C方式第2期	1月8日(木)～3月10日(火)	1月17日(土)・18日(日)(大学入試センター試験)	3月18日(水)
CA方式	1月8日(木)～2月27日(金)	1月17日(土)・18日(日)(大学入試センター試験) 3月5日(木)(個別学力検査)	3月10日(火)

詳しくは以下のアドレスより、理工学部ホームページ入試情報をご覧ください

<http://www.cst.nihon-u.ac.jp/examination/index.html>

平成 21 年度 理工学部・大学院理工学研究科の主な行事予定

行事	日時
ガイダンス期間（上級生・新入生）	4月2日（木）～7日（火）
新入生歓迎式	4月6日（月）
入学式	4月8日（水）
前期授業開始	4月9日（木）
付属校生のためのオープンカレッジ	6月7日（日）
駿河台入試フォーラム	7月12日（日）
前期試験	7月21日（火）～8月1日（土）
オープンキャンパス	8月1日（土）・2日（日）
夏季休暇	8月3日（月）～9月24日（木）
後期授業開始	9月26日（土）
学部祭	10月29日（木）～11月2日（月）
船橋キャンパスウォッチング	11月1日（日）
学術講演会	11月28日（土）
冬季休暇	12月24日（木）～1月9日（土）
後期試験	1月26日（火）～2月8日（月）
卒業式	3月25日（木）

博士論文公聴会

1月16日（金）に駿河台校舎1号館122会議室にて、土木・建築・地理系の博士（工学）の学位申請論文公聴会が開催されました。土木工学科からは、大学院博士後期課程の喜多村延政君（指導教官 松島眸教授）が発表を行いました。喜多村君は緊張した様子でしたが、無事に発表を終えました。

発表タイトルは以下のとおりです。

所属	役職	発表タイトル
日本大学理工学部土木工学科	大学院博士後期課程	落葉広葉樹枯葉を用いた有毒藍藻 <i>Microcystis aeruginosa</i> の増殖抑制に関する基礎的研究



会場の様子



発表を行う喜多村君

なお、大学院博士前期課程（修士）、大学院博士後期課程（博士）の平成21年4月入学の試験は、3月7日（土）にも実施されます。詳細は以下のURLをご参照下さい。

URL : http://www.cst.nihon-u.ac.jp/graduate_school/examination/01.html

防災教育及び消防・防災訓練が実施されました

平成20年12月25日（木）に駿河台校舎9号館にて防災教育及び消防・防災訓練が実施されました。これは、理工学部（駿河台校舎）消防計画に基づき、防災教育及び消防・防災訓練を行い、防災体制の強化と教職員の防災意識の向上を図り、より安全な教育環境をつくることを目的としています。当日は、講演等による防災教育、AEDを用いた応急救護（心肺蘇生法）訓練、消火器及び消火栓による消火訓練が行われました。



AED 応急救護訓練の様子



消火訓練に参加する渡邊助手
写真手前



理工学部職員による訓練の様子

平成 20 年度後期授業が終了しました

1月26日(月)に学部・大学院の後期授業が終了いたしました。この後に、1月27日(火)～2月9日(月)に後期定期試験が行われ、今年度の授業日程が終了いたしました。後期試験終了後は、春季休暇に入ります。学生達は、長い休暇を勉強や旅行、趣味にと思い思いに満喫するようです。

日大土木 Who's Who

今回は、土木工学科の設立に奔走された**円谷弘先生**です。

No. 15

氏 名：円谷 弘

専門分野：社会政策

在任期間：1920（大正9）年から

略 歴：

1888（明治21）年1月 秋田県仙北郡角館町で誕生

1912（大正元）年10月 日本大学法律科中退

この間、東京府大村尋常高等小学校教員

1915（大正4）年 京都帝国大学文学部史学科入学

1916（大正5）年 京都帝国大学文学部哲学科へ転科

1919（大正8）年 京都帝国大学文学部哲学科卒業

文部省実業学務局嘱託

1920（大正9）年4月 日本大学社会科長兼教授就任

1928（昭和3）年4月 日本大学工学部学監就任

1946（昭和21）年 日本大学理事長

1949（昭和24）年 死去



円谷先生は現在の理工学部の前身となる日本大学高等工学校及び工学部の創設に尽力した人物である。当時日本大学社会科長兼教授であった円谷先生は、工業分野進出のため、高等工学校を日本大学で開校するべきであると当時の日本大学常任理事の山岡万之助に提案をした。山岡はこの提案を受け入れ高等工学校の創設へ動き始め、大正9年9月1日に開校することとなった。その後関東大震災により、首都復興のために多くの高等工学校OBや在校生が活躍し、高等工学校の評判を高めていった。その結果、入学志望者が急増し、それに対応するためにも学部設立が必要になってきた。円谷先生らは学部創設に向けて毎月集まり、議論を重ね、大正15年（昭和元年）に文部大臣の許可がおり、工学部設立が現実のものとなった。昭和3年4月14日に工学部入学式が挙行され、工学部の歴史が始まった。円谷先生は工学部では学監を務めた。

参考文献 日本大学理工学部、「伝統と情熱の70年史・日本大学理工学部」、1990年
日本大学HP 歴代理事長 <http://www.nihon-u.ac.jp/info/chairmn.html>

最近の教員活躍状況



田中和博教授が1月31日（土）に、国土交通省共用大会議場にて国土交通大臣表彰（感謝状授与）を受けました。今回の表彰は、下水道事業の推進に特に尽力した個人および団体に表彰するものであり、田中教授の前勤務先であった日本下水道事業団からの推薦によるものでした。推薦理由は元日本下水道事業団技術開発部長として下水道の新技术の開発に尽力したことおよび日本大学理工学部教授として多年にわたる教職を通じて後進の指導にあたったことです。また、本学科からは田中教授のほかにも3名のOBが表彰されています。表彰された4名は、以下の表の通りです。

氏名	卒業年度	旧役職	推薦理由
田中 和博 教授		元日本下水道事業団技術開発部長	多年教職を通じて後進の指導にあたるとともに下水道の新技术の開発に尽力したため
曾我部 博 氏	昭和37年度	元東京都下水道局長	多年公務員等として下水道事業の推進に尽力したため
伊藤 晃 氏	昭和41年度	元日本下水道事業団東京支社プロジェクトマネジメント室長	多年公務員等として下水道事業の推進に尽力したため
金刺 敏朗 氏	昭和42年度	元日本下水道事業団大阪支社次長	多年公務員等として下水道事業の推進に尽力したため

田中教授の下水道に関する談話

昭和33年4月に下水道法が制定され、今年で50周年を迎える。この50年間は、下水道の法整備に伴い、わが国の下水道事業が急速に進んだ時代である。この法律は「都市環境の改善を図り、もって都市の健全な発達と公衆衛生の向上に寄与する」ことを目的として合流式下水道を前提として都市内の浸水防除、都市内環境整備に重点が置かれていた。昭和30年代に始まる河川の汚濁は、全国主要市内の河川から都市近郊の河川まで予想以上に速く広がり、政府としてその対策が急がれた。このような背景から下水道法に「公共用水域の水質保全に資する」という目的が加えられ、今日の下水道法の体系が出来上がった。



島崎敏一教授のコメントが、社団法人日本建設機械化協会発行の雑誌「建設の施工企画」の平成20年12月号の巻頭言に掲載されました。

また、島崎教授は1月21日（水）に開催された「CAL/EC MESSE 2009」で企画された「CAL/EC シンポジウム」にてコーディネーターを務めました。今回で8回目となる「CAL/EC MESSE 2009」は、CAL/EC シンポジウム及び各種セミナーと CAL/EC ソリューション並びに建設 ICTに関する最新製品/技術を集めた国内最大級の展示会から構成されています。島崎教授がコーディネーターを務めた「CAL/EC シンポジウム」は『建設 ICT による建設生産システムの変革ー可能性から現実へー』のテーマで行われました。